

解答

一

- 問一 ウ
問二 エ
問三 ウ
問四 ア
問五 エ
問六 イ
問七 昼、夜
問八 (半) 信 (半) 疑
問九 ウ
問十 大乱舞するホタル
問十一 エ

二

- 問一 まだ、できていなかった
問二 立身出世を果たし、名誉と地位を手に入れたのです。
問三 昇進
問四 イ
問五 人望があった（から）
問六 ウ
問七 エ
問八 イ
問九 ア
問十 寒さや飢えをしのぐのに十分な生活

三

- 問一 ① きほ ② くんりん ③ きょうめい ④ しきべつ ⑤ さいじ ⑥ 温暖
⑦ 会心 ⑧ 参拝 ⑨ 縮図 ⑩ 除去

解説

一

- 問一 「暗い森を抜けた大介たちの頭上には、六月のまぶしい太陽があった。」「さっきまで、薄暗い森の中を一列になって歩いていたときは、代わる代わる声をだしていた。」という記述から、暗い場所では不安で声をだしていたが、明るい場所ではその必要がなくなっただと考えられるので、選択肢ウが選べます。
問九 ④の前にある「大介は持っていた懐中電灯の光を下級生の尻に当てた。」から、「懐中電灯の光を他人の尻に当てるとい行為」という記述を含む、選択肢ウが選べます。

二

- 問八 本文には、盧生が一人の老人と出会った後でみた夢から、地位も、名誉も、金もあっても本当に幸福になれるとは言い切れないことをさとした様子が描かれています。老人がみせた盧生の夢を通じて、読者は本当の幸せや人生の楽しみについて考えることになるので、選択肢イが選べます。
問九 ④の後から、盧生が「名誉や地位、財産を手に入れた喜びが大きければ大きいほど、失った時の悲しみ、苦しみが大きいことが知らされました。一国の宰相と、貧しい農民を比べて、どちらが幸せとも言い切れません。」と思ったことがわかるので、選択肢アが選べます。